

武庫川のキアシハナダカバチモドキ

新家 勝

本誌の第25巻1号に、人と自然の博物館中西明徳先生の報文「キアシハナダカバチモドキの大発生について」が掲載され、三田市と神戸市北区における3件の発生事例の報告とともに、県下のこれまでの発生地に須磨海岸がある、武庫川の川原での目撃例がある、確実な発生地は少ない、参考文献は少なく発生についての情報も少ないことなどが明らかにされていた。

私は1980年以来、地元の武庫川で度々本種を目撃し、撮影もしている。武庫川は県下の確実な発生地であると考えられるので、観察結果を紹介したい。

[従来の観察結果]

1980. 8. 3 西宮市田近野町, 武庫川堤防
カワラサイコの花で吸蜜中のもの、堤防上の地面で穴掘り中のものを目撃。
1982. 7. 30 同上
堤防上の地面で穴掘り中のものを撮影。
1983. 8. 12 宝塚市東洋町, 武庫川堤防
キレハノブドウの花で吸蜜中のものを撮影。
1989. 7. 15 西宮市田近野町, 武庫川堤防
墓地および堤防上の地面で目撃。
1989. 7. 24 西宮市田近野町, 武庫川堤防
墓地および堤防上の地面で穴掘り中のものを撮影。
1991. 7. 21 西宮市田近野町, 武庫川堤防
墓地および堤防上の地面で目撃。
1991. 7. 28 西宮市日野町, 武庫川高水敷
地面で目撃。
1994. 7. 22 同上
墓地および堤防上の地面で目撃。

武庫川でヒメジュウジナガカメムシの観察をしていた1980~1982年の間、食草のガガイモ以外にもこのカメムシが吸蜜する花があるだろうと、カワラサイコの群落で観察していたところ、その周

辺で度々、キアシハナダカバチモドキに出会った。これまで見たことのない、きれいなハチだったので、希少種とは知らないまま、撮影したり、フィールドノートへ記録していた。

次に、1983~1988年の間は、発生期にこの場所を訪れなかったのが、宝塚市での撮影例があるだけであるが、トンボの観察をしていた1989~1992年の間は時々見掛けたので、記録は忘れずに取り、撮影もしていた。その後は発生期にあまり訪れなかったのが、1994年に目撃しただけで、1993, 1995, 1996年については記録がない。

[1997年の観察結果]

1997年は、発生期に度々この場所を訪れたので、本種の発生を十分に確かめ、行動もかなり観察できた。

1997. 7. 16 カワラサイコの花はよく咲いていたが、吸蜜中のものは見られず、堤防上に1頭、墓地内に3頭、いずれも地面に静止しているの見付け、証拠として1頭採捕した。また、これまで気付かなかったが、よく似た小型種のヤマトスナハキバチがおり、多数、地面近くを飛んでいるのが見られた。

1997. 7. 20 カワラサイコの花はよく咲いていたが、吸蜜中のものは見られず、墓地の地面で



武庫川での発生地

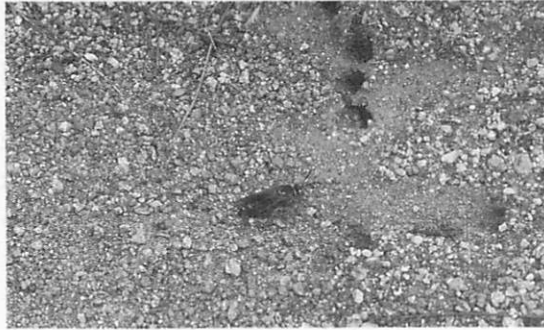
1997. 7. 16 西宮市田近野町



巣穴を掘る
1982. 7. 30 西宮市田近野町



キレハノブドウで吸蜜する
1983. 8. 12 宝塚市東洋町



余坑(ダミー)を含む複数の穴が見られる
1989. 7. 24 西宮市田近野町



巣穴の周りを監視する
1997. 8. 4 西宮市田近野町

5頭が静止し、2頭が巣穴を掘っていた。また、ヤマトスナハキバチは多数、地面近くを飛んでおり、証拠としてこれも1頭採捕した。

1997. 7. 29 小雨のぱらつく曇天の中、カワラサイコにも地面にも見られず、1頭が飛んでいるのを見ただけであった。また、ヤマトスナハキバチも見られなかった。

1997. 7. 30 墓地の地面で穴掘り中のもの1頭と静止中のもの2頭、ほかに飛翔中のもの1頭が見られた。ヤマトスナハキバチも多数いて、穴掘りを始めており、併行して複数の穴を掘っているものもいた。

1997. 8. 4 墓地で巣穴の周辺を監視しているもの1頭、墓地内を飛翔中のもの3頭が見られたが、穴掘り中のものと地面に静止中のものは見られなかった。7. 20および7. 30に穴掘りしていた所では、いずれも巣

穴が埋められており、1カ所を除き成虫の姿も見られなかった。幼虫の餌探しや吸蜜などに出かけているのか、営巣をやめて立ち去ったのかは分からなかった。

1♀が監視中の場所では、巣穴は、3.6m×3.6mの区画に7個掘られていた。ヤマトスナハキバチは多数見られた。

1997. 8. 10 巣穴はすべて埋められ、地上で行動しているものもおらず、飛翔中のものを1頭見ただけだった。給餌が終わったので、入り口を埋めたのではないかと思った。ヤマトスナハキバチも減少していた。

1997. 8. 14 堤防上の通路で飛翔中のものと巣穴掘り中のもの各1頭を見ただけだったが、巣穴を掘っていたものは、数分後には入り口を埋めて、飛び去っていた。ヤマトスナハキバチは8. 10と同程度見られた。

1997. 8. 16 巣穴掘り中のものと周辺の草むら内を

徘徊しているもの各1頭を見ただけだった。巣穴を掘っていたものは、約30分後には入り口を埋めて、飛び去っていた。徘徊していたものは幼虫の餌探しをしていたと思われる。ヤマトスナハキバチは、8.14より減少したが、まだかなり見られた。

1997.8.20 1頭も見られなかった。ヤマトスナハキバチも減少し、数頭見ただけだった。

以上のことから、「本種は、西宮市田近野町付近の武庫川に生息しており、毎年、7月中旬から8月中旬にかけて約1ヶ月の間に成虫が出現している」と言える。また、次のような行動が見られる。巣穴掘りの始める以前、地面に静止しているものは、顔を上げ、触角をびんと伸ばし、左右を見回しては時々、向きを変える。周囲を見張っているようであり、他の個体が近付くと、飛び上がって追跡し、追い払う。追跡は、他の個体だけでなく、アシナガバチ類やツチバチ類、さらに低空を飛ぶウスバキトンボにまで及ぶ。そして、周囲を飛んで巡回し、ほぼ同じ場所に戻ってくる。巣穴の掘られそうな場所を見付け、邪魔者を排斥しているようで、後日、中西先生から、それは♂であって♀の発生を待っているのではないかとの、ご見解とともに、習性に関する文献[参考文献*1および*2(抜粋)]をいただいた。

少し日が経つと、このような♂の行動だけでなく、巣穴を掘る♀が見られる。広い傾斜地の内この場所では、巣穴は平坦地に掘られる。写真でも分かるように1つの墓地区画に数個掘られているが、文献に示される余坑(ダミー坑)が含まれているはずである。巣穴を掘った後は、♀は少し飛んでは巣穴を巡回し、巣穴の上や近くに着地して周囲を監視するような行動を見せる。時に巣穴に入ってしまったら出てくるのは、内部の点検のためらしい。また、区画に侵入する他の昆虫を追い払うだけでなく、時々周囲を飛んで巡回している。また、ハリバエの1種らしいのにつきまといることがある。

巣穴を掘っていたのに、しばらくして埋め戻したのは、文献で述べられるように、外出中は巣穴

をふさぐためであって、一度ふさいだ入り口を掘り返して給餌し、再度埋め戻していたものと思われる。

文献から分かるように、巣穴は堤防上の通路では砂地に掘られる。また、墓地では玉砂利を敷いた区画ではなく、砂質土やアンツーカを敷いた区画に限られている。堤防は河原に堆積していた砂礫を積み上げて造られているので、以前は堤防上の通路でも盛んに巣穴を掘っていた。しかし、最近ではクルマの進入などにより踏み固められたこと、カワラサイコに加えてヨモギ、シバ、コマツナギ、メヒシバなどが広がってきたことなどのため、あまり利用されなくなった。また、河原の砂地での営巣が見られないのは、増水時に冠水するためであると思われる。

この場所での餌となる直翅類の種類など、調べたいことが幾つかある。真夏の直射日光の下、大変であるが、文献を手掛かりにこれからも観察したい。

ヤマトスナハキバチ：腹部背面の斑紋の形状が、図鑑と若干異なるが、ヤマトハナダカバチモドキではないかと推定していたところ、同種であって和名はヤマトスナハキバチに改称されていると、東正雄先生からご教示いただいた。

なお、この報告をするにあたり、ご指導いただいた中西明徳先生および東正雄先生にお礼を申し上げます。

<参考文献>

- キアシハナダカバチモドキ(*Stizus pulcherrimus* SMITH)の習性 (むし15, 1943) (*1)
- 日本産蜂類生態図鑑 講談社 1982 (*2)
- 擬鼻高蜂と鼻高蜂の習性 (昆蟲 Vol. 10, No. 5, 1936)
- キアシハナダカバチモドキの大発生について (きべりはむしVol. 25, No. 1, 1997)
- 原色昆虫大図鑑 Ⅲ 北隆館 1973

(NIINOMI MASARU 宝塚市光明町8-57)